

- 本書の説明用イラストは、実物とは状態や形状が異なる、一部の表示を省略している等の場合があります。
- 本書の内容の一部、または全部を無断転載することは著作権の侵害となります。乱丁・落丁はお取り替え致します。

製造元：

ALINCO アルインコ株式会社 電子事業部

東京営業所 〒103-0027 東京都中央区日本橋2丁目3番4号 日本橋プラザビル14階 TEL.03-3278-5888
大阪営業所 〒541-0043 大阪市中央区高麗橋4丁目4番9号 淀屋橋ダイビル13階 TEL.06-7636-2361
福岡営業所 〒812-0016 福岡市博多区博多駅南1丁目3番6号 第3博多偕成ビル7階 TEL.092-473-8034

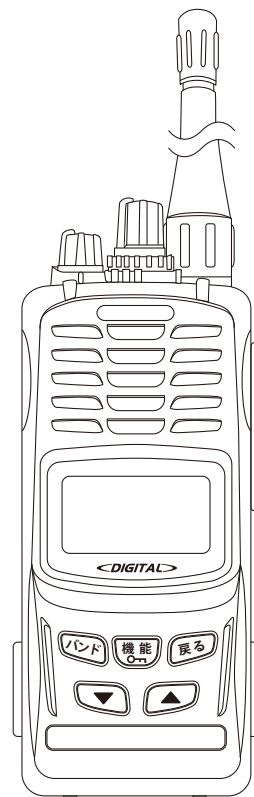
*使用方法、保守・点検などアフターサービスに関するお問い合わせは、まず、本製品を管理される自治体組織の通信機器担当者様にご相談ください。弊社営業所に直接お電話頂きましても、納入時の設定や保守契約の内容など、すぐに分かりかねることがあるためです。ご理解の程、お願い致します。
管理上大きな支障になりますので、銘板やラベル類は一切、絶対に剥がしたり、貼り替えたり、意図的に汚したり、印字を消したりしないでください。

販売元：



株式会社エクセリ
(代理店届出番号C1909977)
東京都中央区日本橋浜町2-30-1 /
大阪府大阪市中央区久太郎町1-9-5
お問い合わせ総合ダイヤル 03-3662-0551
URL:<https://www.exselli.com/>

PS0771A
FNEF-EE



消防救急デジタル無線共通仕様書準拠
携帯型受令機

DJ-XF7

取扱説明書

注意 本書の公開や放置、不用意な廃棄やコピーを禁ず。

本機の性能を充分に発揮させるために、この取扱説明書を最後までお読みいただくようお願い致します。お読みになった後も、この取扱説明書は必ず保管してください。また、補足シートや正誤表が入っている場合は、取扱説明書と合わせて保管してください。

◆◆◆ 目 次 ◆◆◆

目次	2
使用前のご注意	4
1. 携帯型受令機をお使いになる前に	5
付属品の確認	5
付属品の取り付け方	6
2. 本体の名称と動作	10
3. 基本操作	12
4. 受信機能	14
音声受信	14
ショートメッセージの受信	15
発信規制信号	16
5. セットモード	17
セットモード一覧	17
運用設定	18
録音開始／停止	18
機能設定	19
履歴表示	21
FMラジオ	21
情報表示	22

6. 便利な機能	23
チャンネルスキャン	23
キーロック	23
電池残量アイコン	23
チャンネルストッパー	24
7. 保守・参考	25
故障とお考えになる前に	25
8. 定格	27

◆◆◆ 使用前のご注意 ◆◆◆

■分解しないでください

本受令機は調整済みです。使用者ができる改造箇所はありません。絶対に分解しないでください。

■ご使用上の注意

セキュリティ機能が搭載されていますが、悪用されないよう、防犯管理には充分で配慮ください。消防救急通信の内容やそれから知り得た情報を悪用したり、不用意に第三者に漏らしたりすると電波法違反として罰せられることがありますのでご注意ください。

■耐塵・防浸・振動・衝撃に関する外郭保護について

外郭保護等級IP67規格の耐塵・防浸と表示された製品は、下記の点が考慮されています。

耐塵：埃や塵が直ちに製品の故障に繋がらない

防浸：特定の条件で、真水が製品内部に浸透しない

充電器や電池パックなど、特に外郭保護を謳っていないアクセサリは耐塵、防浸ではありません。竜巻のような風圧や、流水のような水圧が掛かる場合、金属製・油性・酸や塩分・化学物質を含む等の特殊な粉塵や液体の場合は、この外郭保護性能は保証されません。このような物質で濡れたり汚れたりした時はすぐに乾いた布で拭くなどのメンテナンスを心がけてください。部品に使われている素材は経年変化のために変質し、保護性能が低下します。外郭保護が非常に重要な場合は、定期的な保守点検をお勧めします。振動や衝撃に関しては、米軍納入規格MILスペックのMIL-STD-810に準拠した試験を実施、合格したものにその旨を表示しています。衝撃試験は、固い地面に製品を落とす「落下」試験とは異なります。必要以上に乱暴に電子機器を扱うことは、お止めください。また、電池パック装着部付近のシールは絶対に剥がさないでください。耐塵・防浸を保つために必要です。このシールを覆うように別のシールなどを貼らないでください

■納入仕様について

本機は納入先に指定された内容に沿って、予め個別にプログラムされています。プログラムによって、受令機が本書に記載のない機能を備えている場合や、本書に記載している機能が受令機に備わっていない場合があります。納入元や製造元には、納入先の指示が無い限り、設定内容を変更する権限はありません。また、使用者自身が仕様を変更することはできません。

■受信可能な信号について

本製品は200MHz帯消防救急デジタル無線通信システムを受信するもので、従来のアナログ方式による消防救急無線システムは受信できません。

1

携帯型受令機を お使いになる前に

..... 付属品の確認

本製品の標準構成は以下の通りです。納入仕様により異なる場合があります。

- ☐ 消防救急デジタル無線用携帯型受令機 DJ-XF7
- ☐ アンテナ EA-XF7
- ☐ 電池パック EBP-700
- ☐ 充電器 EDC-700
- ☐ 充電器用ACアダプター EDC-701

本受令機専用、または弊社が認めたアクセサリ以外をご使用になって起きた不具合は保証期間の有無を問わず有償修理になります。
他社製アクセサリに起因する不具合は、弊社で修理や改造で対応することはできません。

..... 付属品の取り付け方

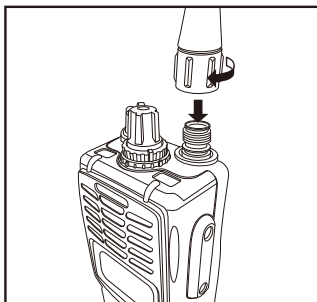
■アンテナの取り付け方

アンテナの根元を持って時計回り(右)に回転が止まるまで回します。外すときは反時計回り(左)に回します。

※緩みがないか、時々確認してください。



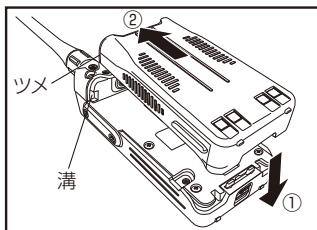
・アンテナコネクタの形状は
参考 TNC-P型です。



■電池パックの取り付け / 取り外し

●電池パックの取り付け方

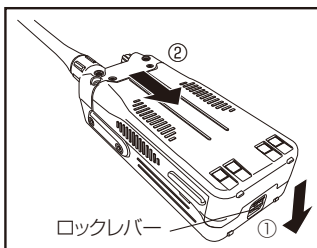
電池パックのツメを本体の溝に合わせ、電池パックを矢印の方向に「カチッ」と音がするまで押し込みます。



●電池パックの取り外し方

本体のロックレバーを押して電池パックを矢印の方向にスライドさせて取り外します。

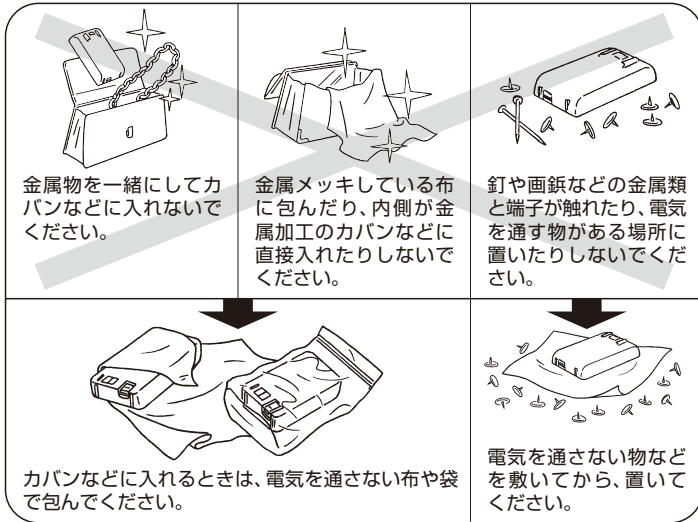
※スライドさせる際は、指や爪などを傷めないよう、十分に注意してください。



・本受令機は外部電源での使用はできません。電池パックの持ちに不安がある時はスペアの電池パックをご用意ください。

■電池パックの取り扱いについて

! 電池パックを持ち運ぶときは、十分ご注意ください。ショートによって電流が急増し、発熱、発火、火傷の原因となることがあります。

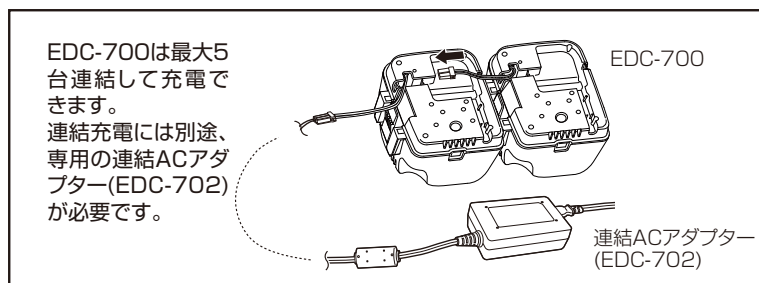
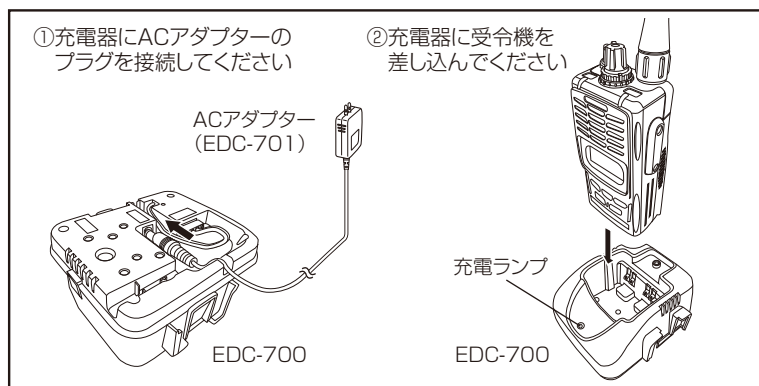


- 注意**
- ・電池パックは出荷時には十分に充電されておりません。満充電してからお使いください。
 - ・充電は0℃～40℃の温度範囲内で行ってください。この範囲を外れると、充電できないことがあります。
 - ・電池パックの改造、分解、火中・水中への投入は絶対にしないでください。発熱・破裂などの可能性があり、大変危険です。
 - ・電池パックの端子は絶対にショートさせないでください。機器の損傷や、発熱による火傷の原因となることがあります。
 - ・継続的な充電や放電状態での放置は、電池パックの劣化を早める原因になります。
 - ・電池パックの保存は、-10℃～45℃の温度範囲で湿度が低く乾燥した場所を選んでください。それ以外の温度や極端に湿度の高い所では、液漏れや金属部分の錆の原因になりますので避けてください。
 - ・電池パックは消耗品です。所定の時間充電しても使用時間が著しく短い場合は寿命がきたものと思われます。新しいものにお取替えください。
 - ・電池パックはリサイクル資源です。再利用しますので、廃棄しないで電池パック回収協力店へご持参ください。

■電池パックの充電方法

充電器とACアダプターを接続して電池パックを充電します。

注意 製品購入直後、または長い間使用しなかったときは、フル充電してからお使いください。専用充電器でしか充電できません。



充電器の充電ランプが赤色に点灯し、充電が完了すると充電ランプが緑色になります。充電時間は空の電池パックをフル充電する場合、約4時間です。
この電池パックは継ぎ足し充電や、充電器に載せて充電しながらの受信ができます。また、スペアの電池パックだけを充電することもできます。

■温度仕様について

充電は0℃～40℃の間で行ってください。この範囲を外れて充電しようとしても、充電できません。

温度範囲	受令機本体	性能保証：-10℃～50℃ / 動作保証：-20℃～60℃
	電池パック	充電：0℃～40℃ / 放電：-20℃～60℃

■電池パックの性質と取り扱いについて



参考

- ・電池パック(EBP-700)はリチウムイオン充電電池(Li-Ion 充電電池)です。Li-Ion 電池の理想的な使い方は、「毎日使って、電池を充放電させる」で、常に充電電流を流していると早く消耗し、放電状態で長期間放置すると充電ができなくなります。このため予備の電池を備蓄されるときは、全ての電池をローテーションさせて日々実用するほうが効果的です。(Li-Ion 電池の保存は定格電圧を保つことが重要で、50%程度の充電状態がこの目安になります。)
- ・Li-Ion 電池は理想的に使っても、3年で約30%程度の容量は消耗する性質があります。

注意

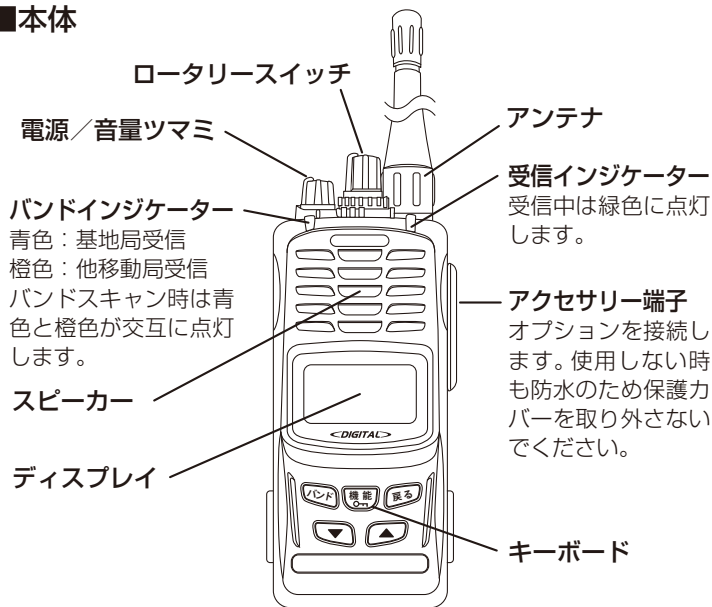
- ・寒冷状態では、電池パックが一時的に不活性化して運用できなくなることがあります。保温にご留意ください。
- ・本体、充電器、電池パックは、ときどき乾いた清潔な布やOA機器清掃用ブラシ等で埃や手垢を清掃してください。汚れていると接触不良からくる充電トラブルの原因となることがあります。
- ・電池パック(EBP-700)は対応する製品専用の電池です。純正の専用充電器以外の物で充電を試みることは絶対におやめください。
- ・電池の状態を感知して動作するセキュリティ機能が働く設定にプログラムされている場合、電池パックの使い方に制限があります。この場合は管理者様の説明に従った運用をしてください。
- ・充電器の充電ランプが赤色に点滅を繰り返すときは、保護回路が作動しているか故障の状態です。一度充電器から取り出して、目視で機器の異常や汚れがないか確認清掃後、受令機に装着している場合は電源を切った状態で充電器に載せて、充電が始まるかどうかをご確認ください。正常な動作に戻らなければ点検にお出してください。

2

本体の名称と動作

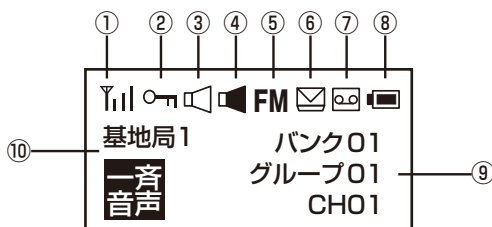
※本書中、「長く押す」「長押し」は、説明する動作が始まるまでキーを押したままにすることを表します。「押す」はしっかりとキーを一度押してから、すぐに指を放すことを表します。

■本体



キー名称	機 能
バンド	押す度に基地局受信と他移動局受信を切り替えます。 長く押すとバンドスキャン(※P.13)に切り替えます。
機能	「機能」キーを押すとメニューを開きます。メニュー画面で押すと、その項目を選択します。また、初期画面で長押しするとキーロックとなります。再度長押しするとキーロックが解除されます。
戻る	メニュー画面等ではひとつ前の画面に戻ります。
▲/▼	メニュー表示時にカーソルを上下に移動します。

■ディスプレイ表示



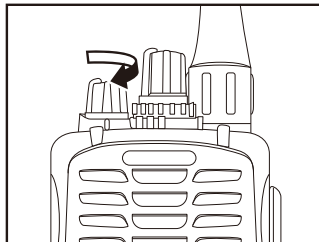
説 明		
①		受信した電波の強さを三段階で表示します。 電波がないときは「〒」だけを表示します。
②		キーロック動作時に表示します。
③		内蔵スピーカー有効時に表示します。
④		外部イヤホン有効時に表示します。
⑤	FM	FM ラジオ機能有効時に表示します。
⑥		未読のショートメッセージがある場合に表示します。
⑦		未聴の録音データがある場合に表示します。
⑧		電池残量を三段階で表示します。 残量が少ないときは「」を表示します。
⑨	バンク01 グループ01 CH01	上から順にチャンネルバンク名(または発信規制情報)、 グループ名、チャンネル名を表示します。
⑩	基地局1 	発信元の名前や、受信の種類を表示します。

3

基本操作

■電源を入れる、切る

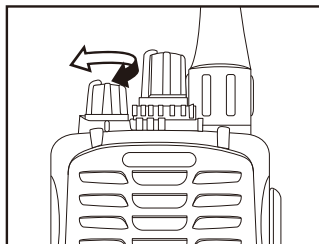
電源 / 音量ツマミを時計回り(右)に回して電源を入れます。電源を切るときは、反時計回り(左)に端まで回します。



■音量を調整する

電源 / 音量ツマミを時計回り(右)に回して音量を大きくします。音量を小さくするには反時計回り(左)に回します。

イヤホンで聞くときは音量を最小にしてから、調整を始めてください。



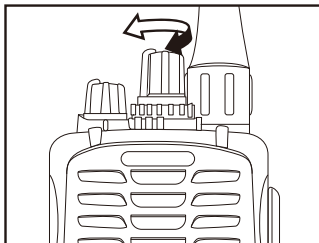
参考

・目安になる信号がないときはFMラジオ(※P.21)を受信しながら電源 / 音量ツマミを調整すると適切に設定できます。

■チャンネルを切り替える

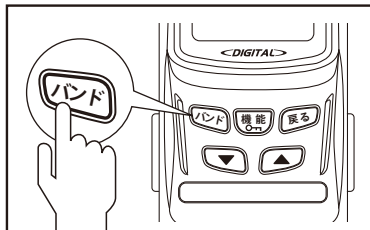
ロータリースイッチを回すと、CHバンク選択(※P.18)で選択しているバンク内のチャンネルを順次切り替えます。最大16チャンネル※を切り替えられます。

※チャンネルスキャン機能を割り当てた場合、最大15チャンネルとなります。この場合、反時計回り(左)に端まで回すと、チャンネルスキャン(※P.23)を開始します。



■バンドを切り替える

押す度に基地局受信と他移動局受信を切り替えます。長く押すとバンドスキャンに切り替えます。バンドスキャンとは、基地局受信と他移動局受信を交互にスキャンして信号が出ているバンドに切り替える機能です。再度長押しすると、バンドスキャンを中止します。バンドスキャン中は、バンドインジケータが青色と橙色に交互に点灯します。



■音声を受信する

音声信号を受信すると、受信インジケータが緑色に点灯し、受信した信号レベルに応じてディスプレイのアンテナが表示されます。この時、受信条件※を満たしていると音声聞こえます。

■ショートメッセージを受信する

ショートメッセージ信号を受信すると、受信インジケータが緑色に点灯し、受信した信号レベルに応じてディスプレイのアンテナが表示されます。この時、受信条件を満たしているとショートメッセージを受信します。

■設定を変更する

設定を変更するには、「機能」キーを押してセットモード(※P.17)を開きます。設定を変更したい項目を「▼」キーまたは「▲」キーで選択し、で選択し、「機能」キーで決定してください。

※受信条件について

送信を行う局がグループ通信機能などを使い、特定の局と通信を行う場合、自局がその対象でなければ受信できません。

4

受信機能

受信バンドを切り替え(☞P.13)で、どの局から信号を受信するかを決めます。

基地局受信：基地局からの音声、他移動局から基地局を経由した音声、ショートメッセージ、発信規制信号を受信します。

他移動局受信：他移動局から送信された音声を直接受信します。

バンドスキャン：基地局受信と他移動局受信を交互に切り替えます。

音声受信

基地局または他移動局からの音声を受信すると、次のように動作します。

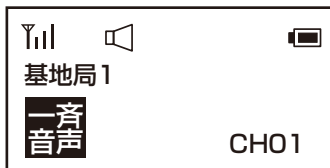
①受信インジケータが緑色に点灯します。

②ディスプレイに「一斉」「音声」文字を表示します。

③発信元の名称を表示します。

※発信元の装置情報が本受令機に登録されていない場合は、発信者番号を表示します。

④スピーカーから受信した音声を鳴らします。

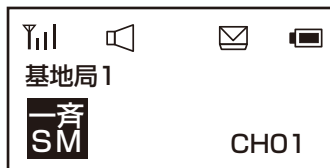


参考

・デジタル通信は、アナログに比べてフェージングの影響を受けやすく、走行中の車両からの通信などは途切れて聞こえがちになる事があります。

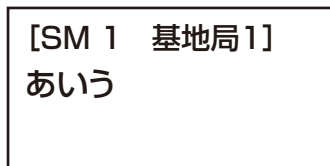
……… ショートメッセージの受信 ………

基地局または他移動局からショートメッセージを受信すると、次のように動作します。



- ①受信インジケータが緑色に点灯します。
- ②ディスプレイに「一斉」「SM」文字を表示します。
- ③発信元の名称を表示します。
※発信元の装置情報が本受令機に登録されていない場合は、発信者番号を表示します。
- ④「ピポッ」という音が鳴り、ショートメッセージを受信し終わったことを知らせます。

SM自動表示 (☞P.20) をオンに設定すると、受信したショートメッセージを自動的にディスプレイに表示します。受信したメッセージがディスプレイに納まらなかった場合は、ディスプレイ右側に表示の続きがあることを示す「▼」マークを表示します。続きのメッセージを表示するには、「▼」キーを押して、画面をスクロールします。



受信したショートメッセージはSM履歴 (☞P.21) に保存されます。



..... 発信規制信号

基地局から発信規制信号を受信すると、次のように動作します。

- ①受信インジケータが緑色に点灯します。
- ②ディスプレイに規制情報を表示します。

※規制情報によってはディスプレイに表示されないものがあります。

- ③規制情報に対応したブザーやチャイムの喚起音を鳴らします。



発信規制情報	情報詳細	ディスプレイ表示	喚起音
出動指令	火災出動	あり	警報ブザー (ファーウー)
	救急出動	あり	救急車サイレン (ピーポーピーポー)
	救助出動	あり	警報音 (ピロロン)
	連絡	あり	チャイム (ピンボンパンボン)
通信規制	発信規制	あり	アラーム (ブーウッブーウッ)
緊急信号	緊急信号	なし	仕様による
強制切断	強制切断	なし	非常ベル (ピポピポピポピボン)

出動指令または通信規制を受信すると、発信規制中に送信された指令音声も受信します。自動録音 (P.20) をオンに設定すると、指令音声を自動的に録音します。

5

セットモード

..... セットモード一覧

運用設定	CHバンク選択	最大16チャンネル				
	グループ設定	グループモード	シングル マルチ			
		グループ選択	シングルモード	最大62グループ		
			マルチモード	最大62グループ		
録音開始／停止						
機能設定	スピーカー設定	内蔵スピーカー 外部イヤホン		内蔵＋外部 自動切替		
	CHスキャン設定	タイマー		ビジー		
	自動機能設定	SM自動表示	オン		オフ	
		自動録音	オン		オフ	
	操作音設定	オフ レベル1～レベル5				
	ディスプレイ	LCDライト	オフ		オン	5秒
		キーライト	オフ		オン	5秒
		コントラスト	レベル1～レベル10			
履歴表示	SM履歴	最大10件				
	録音履歴	最大10件				
	履歴消去	SM履歴消去	消去する		消去しない	
		録音履歴消去	消去する		消去しない	
FMラジオ	ラジオON/OFF	オン オフ				
	選局	TUNING	65MHz～89.9MHz			
		プリセットチャンネル(最大6件)				
	ボリューム	レベル1～レベル3				
	スケルチ	オープン レベル1～レベル5				
情報表示	装置情報	受令機情報 他局情報0001～他局情報1023				
	団体情報	団体情報0000～団体情報1023				

..... 運用設定

■CHバンク選択

ロータリースイッチに設定しているチャンネルを、バンク単位で切り替えます。

本受令機はバンクを16個持っており、1つのバンクには最大16チャンネル登録できます。CHバンク選択画面には、登録されているバンクしか表示されません。選択中のバンクは「◎」マークによって示されます。

■グループ設定

本受令機に登録されているグループ番号から、受信するグループを選びます。

納入元は、発注者様の指定された仕様の通りに設定します。詳細は通信機器担当者様にご確認ください。

..... 録音開始／停止

受信した音声を録音します。録音するには、あらかじめセットモードから録音開始／停止を選択、決定しておきます。録音中はディスプレイに「」アイコンが点滅します。録音機能を停止するには再度、録音開始／停止を選択、決定します。未聴の録音がある場合、「」アイコンが点灯します。音声の録音時間は1件につき最大60秒です。

機能設定

■スピーカー設定

受信した音声や各種警告音を、どこから鳴らすか選びます。

内蔵スピーカー : 内蔵スピーカーで鳴らします。ディスプレイ上部には「」アイコンを表示します。

外部イヤホン : 外部イヤホンを鳴らします。ディスプレイ上部には「」アイコンを表示します。(オプションが必要です)

内蔵及び外部 : 内蔵と外部両方から鳴らします。ディスプレイ上部には「 」アイコンを表示します。

自動切替 : オプションのイヤホンをつなぐと自動で認識して、それだけを鳴らします。通常は内蔵スピーカーが鳴ります。

 注意

- ・受令機から音が出ないときは、故障を疑う前にまずこの設定をチェックしてください。
- ・「内蔵及び外部」に設定すると、「内蔵スピーカー」、又は「外部イヤホン」に設定した場合と比べて音量が下がりますが、故障ではありません。

■CHスキャン設定

チャンネルスキャン停止後の、スキャン再開条件を選びます

ビジー : 受信している信号がなくなればスキャンを再開します。

タイマー : 信号があっても設定した時間が経過すると

スキャンを再開します。デフォルト値は5秒です。

■自動機能設定

・SM自動表示

オン：ショートメッセージを受信したとき、自動的に受信したメッセージをディスプレイに表示します。

オフ：ショートメッセージを受信しても自動表示は行いません。

ディスプレイ上部に未読メッセージがあることを示す「」アイコンを表示します。

・自動録音

オン：発信規制情報のうち、出勤指令と通信規制の情報を

受信したとき自動的に録音状態となり、指令音声を録音することができます。

オフ：自動録音しません。但し録音開始/停止(※P.18)で録音を開始していると指令音声も録音されます。いずれの場合も、1件につき最大60秒まで、10件のメッセージを録音します。古いメッセージは自動的に消去され、新しい録音に置き換わります。

■操作音設定

キー操作をした時や起動した時、受信した時に出る音をビーブ音と呼びます。ビーブ音の音量はオフ、レベル1～レベル5の間で設定できます。レベル5が音量最大です。オフだとビーブ音は鳴りませんが、喚起音は鳴ります。

■ディスプレイ

液晶ディスプレイのバックライトの明るさや、コントラストを調整します。

LCDライト及びキーライトの設定

オン：バックライトは常時点灯します。(電池が早く減るのでご注意ください。)

オフ：バックライトは消えたままになります。

5秒：バックライトはキー操作、またはチャンネルを切り替えてから5秒間だけ点灯して自動的に消えます。

液晶ディスプレイのコントラスト

コントラストはレベル1～レベル10の間で設定できます。

値が大きくなる程、文字が濃くなります。

履歴表示

■SM履歴

ショートメッセージの履歴を最新のものから最大10件表示します。10件を超えた分は古いものから消去されます。未読のメッセージには「!」マークを表示します。

■録音履歴

録音履歴を最新のものから最大10件表示します。10件を超えた分は古いものから消去されます。「▼」キーまたは「▲」キーを押して履歴を選択、「機能」キーで決定すると録音を再生します。再生中に「機能」キーを押すと再生を中止します。未読のメッセージには「!」マークを表示します。

■履歴消去

- ・ SM履歴消去 消去する：ショートメッセージの履歴を全て消去します。
消去しない：何も消去しません。
- ・ 録音履歴消去 消去する：録音履歴を全て消去します。

FMラジオ

■ラジオON/OFF

「オン」を選択するとFMラジオを受信します。受信中はディスプレイに「FM」アイコンを表示します。

■選局

TUNING：受信したい局を、「▼」キーまたは「▲」キーを押して選局します。受信できる周波数は65MHz～89.9MHzで、受信モードは放送用ワイドFM専用[※]です。

プリセットチャンネル：納入元は、発注者様の指定された仕様の通りに設定します。詳細は通信機器担当者様にご確認ください。

セットモード

※条件によっては通信用ナローFMも聞こえる事がありますが、音質、音量、感度、選択度等の性能は著しく劣るため実用レベルではありませんし、ナローFM用にチャンネルステップを変更することはできません。

■ボリューム

音量をレベル1～レベル3の3段階から選択します。
「▼」キーまたは「▲」キーを押して適切な音量に調整してください。

■スケルチ

スケルチをオープン、レベル1～レベル5の6段階から選択します。
「▼」キーまたは「▲」キーを押して適切なスケルチに調整してください。

..... 情報表示

■装置情報

本受令機に登録されている受令機情報、他局情報を表示します。

■団体情報

本受令機に登録されている自他の団体情報を表示します。

6

便利な機能

..... チャンネルスキャン

ロータリースイッチにチャンネルスキャン機能が割り当てられているときに動作します。チャンネルスキャンとは、信号を受信できるチャンネルを自動で探して、信号を見つけたチャンネルで受信する機能です。チャンネルスキャンをするには、ロータリースイッチを反時計回り(左)に端まで回します。チャンネルスキャンが開始されるとディスプレイに「スキャン」を表示します。



..... キーロック

キーロックは誤ってキーが操作されることを防ぐ機能です。「機能」キーを2秒以上押しとキーロックが設定され、ディスプレイに「」アイコンを表示します。この状態ではこの状態では電源のオンオフや音量調整、チャンネルの切り替えを除いて、キー操作は何もできなくなります。解除するには、もう一度「機能」キーを2秒以上押しと「」アイコンを消します。



..... 電池残量アイコン

電池残量アイコンは、電池パックの残量を表示します。残量表示が空になっているときは、電池パックを交換するか、充電してください。

 電池パックの残量が十分にあります。

 電池パックの残量がまだあります。

 電池パックの残量が少なくなっています。すぐに充電してください。



..... チャンネルストッパー

このリングを指でつまみ、持ち上げて回すことによりロータリースイッチの可動域を制限する機能です。ロータリースイッチが不要なチャンネルに切り替わらないように使います。



チャンネルストッパーを解除するには時計回り(右)に端まで回してください。

注意 必要以上に強い力でロータリースイッチを回すと、本体の破損を防ぐため、ロータリースイッチとチャンネルストッパーが共に回ることがありますが、故障ではありません。無理に力を掛けず、ストッパーが動作する範囲でお使いください。

7

保守・参考

..... 故障とお考えになる前に

保守点検をご依頼になる前に、一度ご確認ください。

症状	原因	処置
電源を入れても、ディスプレイに何も表示されない。	電池パックが接触不良を起こしている。	端子の汚れを清潔で乾いた布や綿棒で拭って取り除く。
	電池パックが消耗している。	電池パックを充電する。
スピーカーから音が出ない。受信できない。	音量が低すぎる。	適切な音量に設定する。
	スピーカー設定が適切でない。	適切な設定に変更する。
受信中に表示が点滅したり消えたりする。	電池パックが消耗している。	電池パックを充電する。
チャンネルが切替わらない。	チャンネルストッパーが設定されている。	チャンネルストッパーの設定を変更する。
キーによる操作ができない。	キーロックが設定されている。	キーロックの設定を解除する。
表示が異常になっている。	CPUが誤動作している。	電源を入れ直す。
充電しない。	充電端子が汚れている。	充電端子の汚れを乾いた布で拭き取る。
充電器の充電ランプが赤色に点滅する。	充電保護回路が動作している。	本受令機の電源をオフにして動作するか確認する。

■保守・点検について

使用方法、保守・点検などアフターサービスに関するお問い合わせは、まず本製品を管理される自治体組織の通信機器担当者様にご相談ください。

弊社営業所に直接お電話頂きましても、納入時の設定や保守契約の内容など、すぐに分かりかねることがあるためです。ご理解の程、お願い致します。

管理上大きな支障になりますので、銘板やラベル類は一切、絶対に剥がしたり、貼り替えたり、意図的に汚したり、印字を消したりしないでください。

■修理について

- ・修理依頼は自治体組織の通信機器担当者様を通じて、納入元に依頼してください。
- ・修理用部品の最低保有年数は、製造終了後9年です。従って保守・修理対応期間も9年となっております。
- ・保守や点検の対応期間を超えた場合は、同等品との有償交換や、お買い換えのご案内をさせていただきます。

8

定格

※記載の無い事項についても共通仕様書に準拠しています。

携帯型仕様

■一般仕様

受信周波数	260MHz帯 消防救急無線周波数
周波数ステップ	6.25KHz
アクセス方式	SCPC
無線変調方式	$\pi/4$ シフトQPSK
変調伝送速度	9.6kbps
音声符号化速度	6.4kbps
受信内容	音声/ショートメッセージ
空中線インピーダンス	50 Ω 不平衡
電源電圧 (EBP-700)	7.4V DC
消費電流	待受時 : 0.2A以下 受信最大出力時 : 0.6A以下
電池使用時間 (*1)	8時間以上/3時間以上 (最大音量時)
外形寸法	H 126mm × W 58mm × D 43mm
質量	245 g 以下 (本体のみ)
温度範囲	性能保証 : -10℃ ~ 50℃ 動作保証 : -20℃ ~ 60℃
湿度範囲	95% 以下 (35℃)
防水性	IP67
対環境性	RoHS 適合

(*1) 受信1 : 待受19の繰り返し

■電気的特性

受信方式	ダブルスーパーヘテロダイン方式
中間周波数	第一 : 21.7MHz 第二 : 455KHz
受信感度	スタティック (BER=1×10 ⁻²) : 0dB μ V以下 フェージング (BER=3×10 ⁻²) : 5dB μ V以下
スプリアスレスポンス	53dB以上
隣接チャンネル選択度	42dB以上
相互変調特性	53dB以上
副次発射強度	4nW以下
筐体輻射	4nW以下 (1GHz以下) 20nW以下 (1 ~ 3GHz)
音声出力	内蔵スピーカー 1W以上/8 Ω (最大音量時) 外部イヤホン 12mW以上/150 Ω (最大音量時)

■参考

充電時間 EBP-700 (1620mAh)	約4時間 (放電状態⇒充電完了)
FMラジオ受信周波数 (*2)	65MHz ~ 89.9MHz

(*2) チャンネルステップは100KHz、モードはワイドFM固定